

研究成果報告書

課題名：モチーフの画像面内の位置と鑑賞者の選好の関係

研究担当者：

リベラルアーツ研究教育院・教授 猪原健弘

環境・社会理工学院・社会・人間科学系・修士2年・LU SEN

研究成果：

葛飾北斎と歌川広重の富士山に関する浮世絵作品を用い、富士山が黄金比に関する位置に描かれていること、鑑賞者の作品に対する選好についての書面でのアンケート結果の統計的解析の間関係を分析した。分析の結果、北斎の作品の88%、広重の作品の91%が、鑑賞者から「美しい」という評価を得たが、これには、富士山が黄金比に関する位置に描かれていることとの相関はなかった。一方、北斎の作品の63%、広重の作品の88%が鑑賞者に富士山を印象づけたが、これには黄金比との弱い正の相関があることが明らかになった。これらの結果により、黄金比は、「美しい」という評価を上げるとはいえないが、モチーフを印象づけることに寄与する可能性があることが示唆された。